

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろキッズらいふ篠ノ井北（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年12月2日		～ 令和7年12月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	低年齢児を中心に小集団で一人ひとりの発達段階に応じた支援を行っている。	・ お子様の発達段階に応じて当事業所において2クラス、同じ地域内の同法人児童発達支援事業所の2クラスの合わせて4クラスで連携し、より発達段階に適した支援を行っています。 ・ 初めての集団や初めての児童発達支援事業所への通所の児童が多数の為、手厚い人員できめ細やかな支援を心がけています。	・ 2歳前後から早期に関わらせていただくケースが増えており、今後、短期間のかかわりで地域移行されるお子様が出てこられると考えられます。事業所として関係機関と連携を図りながら、移行支援の充実に力を入れていきます。また、年齢が低いお子様の保護者様に向けた、より細やかな家庭支援の為の事業を充実させます。
2	PDCAサイクルに基づき、オーダーメイドの個別支援計画を作成し発達支援を行っている。	・ 年に2度の保護者面談、専門職の定期的なモニタリングや児童発達支援センターのコンサルテーション機能を活用しながら、一人ひとりの発達段階に適した支援がなされるよう、個別支援計画を作成しております。個別支援計画に基づいた具体的な支援については、クラス休園日に支援に携わる職員に周知をしています。	・ 専門職のモニタリングの頻度を増やし、サービス提供の内容やお子さま一人ひとりの発達に対する評価を丁寧に行ってまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	賃貸物件であるため、園庭やプールの設置がない、園児用トイレの数や広さ等、サービス提供に工夫が必要である。	・ 賃貸物件の構造上、環境面での大きな変更は難しい状況であります。	・ 活動の内容の検討、地域資源の活用や、同法人の放課後等デイサービスの活動場所の利用、篠ノ井愛の樹園との連携をさらに強化し、お子さまにより適した支援の環境を用意してまいります。
2			
3			